

神奈川建築コンクールについて

1 コンクールの概要

本コンクールは、建築文化、建築技術の向上並びに良好な市街地の形成に役立つ優れた建築物を表彰することで、県内の建築物の質の向上を図るとともに、安全で安心、かつ人や環境にやさしい魅力あるまちづくりを推進することを目的に、昭和 31 年から実施しています。

審査は、住宅部門、一般建築物部門それぞれに学識経験者などからなる審査委員会を設け、「企画力」、「設計力」、「施工力」及び「既存建築物の有効活用、環境、景観、福祉、防災、その他（情勢を踏まえた取組や若手の奨励等）のいずれかに対する配慮」等を総合的に判断し入賞作品の選定を行い、主催者で構成する実行委員会で決定します。

2 審査経過

今回は、令和 5 年 6 月 1 日から令和 7 年 5 月 31 日までに工事が完了した建築物を対象に募集を行い、住宅部門、一般建築物部門合わせて 50 件の応募をいただきました。

審査委員会は、提出された書類、図面、写真で一次選考（書類審査）を行い、そこで選定した 23 件について現地審査のうえ二次選考を行い、入賞作品を選定しました。

	応募件数	一次選考通過件数	二次選考通過件数
住 宅 部 門	27 件	12 件	9 件
一般建築物部門	23 件	11 件	9 件

3 入賞作品選評

(1) 住宅部門 審査委員：鈴木信弘

（写真：最優秀賞「本郷台の家」）



大谷石の雛壇造成を改め、道路沿いに緩やかな丘陵を復元し、堀を設けず植栽で景観を開いた点が、住宅地の新たなあり方を示す提案として評価された。室内は高低差を生かした連続空間で構成され、ラウムプランによって多様な視点場と適度な距離感を生み出している点も高く評価された。

(2) 一般建築物部門 審査委員：藤岡泰寛

（写真：最優秀賞「Bosch Fusion Project」

（上段）及び「山北町立生涯スポーツセンター」（下段）



「Bosch Fusion Project」は、横浜市所有の敷地を公民連携により整備し区民文化センターと本社・研究所を一体的に計画したものである。双方の建物を、地層をモチーフとした同一形状の水平ルーバーで覆うとともに、人と緑の共存空間である港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステムをオフィス空間にも取り込むなど周辺環境の特徴が丁寧に読み込まれ総合的に優れた建築となっている。

「山北町立生涯スポーツセンター」は、町立の木造運動施設である。県内有数の森林面積を有しながら生産量も限られている現状に対して、木材調達から認証、建材としての活用に至るまでの県産木材流通の仕組みづくりにも取り組んだ労作である。150mm 角以下の正角材を用いることで流通性に配慮するとともに、特徴的な屋根架構をあらわしとして見せる工夫が見られ総合的に優れた建築となっている。

4 神奈川建築コンクール 関係団体・審査委員一覧

(1) 主催者

神奈川県 横浜市 川崎市 相模原市 横須賀市 藤沢市 鎌倉市
厚木市 平塚市 小田原市 秦野市 茅ヶ崎市 大和市

(2) 協賛団体

独立行政法人 住宅金融支援機構 一般社団法人 神奈川県建設業協会
一般社団法人 神奈川県建築士会 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会関東支部神奈川支所
一般社団法人 神奈川県商工会議所連合会
公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会（JIA神奈川）
一般財団法人 神奈川県建築安全協会

(3) 後援団体

神奈川新聞社 日刊建設工業新聞社 日刊建設通信新聞社
tvk（テレビ神奈川） 建通新聞社 日本工業経済新聞社

(4) 令和7年度 審査委員

住 宅 部 門：鹿島 芳泰 独立行政法人 住宅金融支援機構 首都圏業務第一部
横浜センター長
鈴木 信弘 神奈川大学 教授
宇留間 雅彦 一般財団法人 神奈川県建築安全協会 常務理事
古賀 紀江 関東学院大学 教授
鈴木 達也 神奈川新聞社 論説主幹
仲亀 清進 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部
神奈川地域会（JIA神奈川） 幹事

一般建築物部門：村島 正章 一般社団法人 神奈川県建築士会 副会長
藤岡 泰寛 横浜国立大学大学院 教授
白井 崇雄 一般社団法人 神奈川県建設業協会 常任理事
山口 英生 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 副会長
串田 浩 一般社団法人 神奈川県商工会議所連合会
秦野商工会議所 専務理事
野村 和宜 一般社団法人 日本建築学会関東支部 神奈川支所 幹事